

第 5 回
国際学生フォーラム
概要

第5回国際学生フォーラム概要

細谷 葵

(お茶の水女子大学・グローバル人材育成推進センター 特任准教授)

開催期間： 2016年3月11日(金)～20日(日)
場所： お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2-1-1)
主催： グローバル教育センター
グローバル人材育成推進センター
協力： グローバル文化学環

国際学生フォーラムは、2009年度よりお茶の水女子大学を中心に行ってきた、世界8か国8大学による「多言語・多文化サイバーコンソーシアム(Multilingual & Multicultural Cyber Consortium: MMCC)」を基盤に開催され、今年度で5回目を迎える。東日本大震災(3.11)を念頭に、複数国から参加した学生とお茶の水女子大学生が、約1週間にわたり、シンポジウムやスタディツアーなどさまざまな活動をともしながら、グローバルな視点から「災害」について意見を交換する貴重な機会となっている。今年度は、「地球環境と災害へのグローバルな挑戦」をテーマに開催された。

本フォーラムの設立のきっかけとなった3.11から、すでに5年を経た。しかし今でも震災後の復興は現在進行形である。テレビでは定期的に3.11関連の番組が放映され、復興をテーマにした研究会等も折に触れ開催されている。一方で、震災の話題があまりに日常化してしまい、多くの日本人の感覚が麻痺してしまっている感もぬぐえない。復興は大変だね、支援しなくちゃね、という言葉が、非常に表面的なそれになってしまう側面もないとは言えない。だが、被災地の方々は、ただ5年前の震災の被害をひきずって苦しんでいるだけではない。その後二次的に発生した問題や、行政の対応の不十分さから起きた問題など、常に新しい問題にさらされているのだ。すなわち、東日本大震災は、過去の災害ではなく、「今」の問題として直視され、議論され続けるべきものだ。そこに、本フォーラムが毎年開催され続けている意義がある。

今年度のフォーラムでは、そのような視点をもちながら、さまざまな災害に対する防災、また災害後の復興のために、未来へ向けて何ができるのかというアイデアを、各国の大学生の視点から提示、議論を展開した。参加者は海外学生5カ国8名、お茶の水女子大学生10名と、例年に比べてやや小規模なフォーラムとなったが、その分密接な意見交換、国際交流が可能となった。

なお、本フォーラムは、科目名「地域研究特論」(担当:細谷葵、2単位)として開講された。お茶の水女子大学が2012年度に採択された「経済社会を牽引するグローバル人材育成支援」事業(旧・グローバル人材育成推進事業)としての活動の一環でもある。海外学生受け入れに当たっては、日本学生支援機構(JASSO)の短期受入れ奨学金制度の助成を受けた。

【準備期間】 2015年11月20日～2016年3月10日

- 11月20日 キックオフミーティング（昨年度責任者＋今年度責任者）
- 12月14日 第一回参加希望者説明会開催（学内募集要項配布）
学外募集要項・参加申請書類フォームをサイボウズ Live にアップ
- 12月29日 学外募集要項・参加申請書類フォームを海外各大学担当者宛にダイレクト
Eメールでも送付
- 1月15日 第二回参加希望者説明会開催（学内募集要項配布）
- 1月18日 海外大学参加申し込み締め切り
- 1月22日 学内一括履修申し込み締め切り
- 2月2日 お茶大参加者顔合わせ&第一回打ち合わせ
※ 海外学生のバディ決定、ボランティア活動の担当決定、学生代表者
（橋本里奈さん）の決定
- 2月3日 学務課での履修登録締め切り
- 2月9日 お茶大参加者第二回打ち合わせ
※ 口頭発表を行う者の確定
- 2月16日 お茶大参加者第三回打ち合わせ
※ 歓送迎会、スタディツアー（都内）、東京一日ツアーの詳細を検討
- 2月23日 お茶大参加者第四回打ち合わせ
※ 国際シンポジウムのプログラムについて検討
※ 以後、打ち合わせはボランティア担当別に適宜行った
- 3月10日 最初の海外学生来日
- 3月11日 全ての海外学生来日
※ 女子学生は国際学生宿舎へ、男子学生は喜美旅館へ入居

例年、本フォーラムに参加するお茶の水女子大学生は、フォーラムの一環である「国際シンポジウム」での口頭発表（英語）もしくはフォーラム中のイベント企画などのボランティア活動を行うことで、履修・聴講と見なすことにしていた。しかし、今年度の参加者は例年より人数が少なかったため、基本的に口頭発表とボランティア活動の両方を行うこととなり、負担が大きかったと思うが、ボランティア活動については酒井彩 AF の采配のもとに、各種イベント準備やパンフレット作成も滞りなく進めることができ、無事にフォーラムの開始を迎えることができた。

海外学生も、事前のお茶大生バディとの連絡状況も良く、全員つつがなく日本に到着した。

【開催日程】 2016年3月11日～20日

- 3月11日 **海外学生チェックイン** (女子：国際学生宿舎、男子：喜美旅館)
- 3月12日 **スタディツアー1**
※ 参加者の最初の顔合わせも兼ねた1日。お茶大生担当者による企画に基づき、都内の震災関連施設(科学技術館、池袋防災館)を見学した。
- 3月13日 **スタディツアー2**
※ JTBに委託し、茨城県東海村へのバスツアーを実施した。東海テラパーク、原子力科学館を見学したり講義を受けて、原子力発電の現状や放射線について学んだ。
- 3月14日 **開講式・キャンパスツアー・歓迎会**
※ 大学内活動の初日。開講式では参加者自己紹介、スタッフ紹介、日程説明、注意事項の提示、奨学金の配布などを行った。海外学生対象のキャンパスツアーでは、今後4日間の学内活動で必要となる場所を中心にめぐった。歓迎会では、かるた大会などを通して、交流を深めた。
- 3月15日 **グローバル文化学環主催・2015年度陸前高田実習(「地域研究実習Ⅱ」)**
「被災地復興における『コミュニティ』の役割」
※ グローバル文化学環学生の実習報告、および、陸前高田市の方々による講演をうかがった。最後の討論の時間では、フォーラム参加の海外学生全員が、発言・質問の機会をいただいた。
- 3月16日 **国際シンポジウム1**
※ 海外学生(5組)およびお茶大生(3名)の、計8本の口頭発表を行った。海外学生は日本語、お茶大生は英語で発表した。チェンマイ大学・西田昌之講師に全日参加いただき、講評もいただいた。
- 3月17日 **国際シンポジウム2・閉講式・送別会**
※ お茶大生(3組)の英語口頭発表を行い、グループ単位での総括ディスカッション、感想文の執筆が続いた。閉講式では修了書が配布された。送別会では坊主めぐり、ビンゴなどをしながら楽しく名残を惜しんだ。
- 3月18日 **東京一日ツアー**
※ お茶大生担当者による企画で、東京都内の観光ツアーを行った。手製の風鈴作り、スカイツリーとソラマチ見学など、盛りだくさんの内容で東京を満喫した。
- 3月19日 **自由研修**
- 3月20日 **海外学生チェックアウト**

参加者一覧

【海外学生】

氏名	大学	学部学科
チョウ・レイレイ	大連理工大学	通訳・翻訳：外国語学院
リュウ・ギョウエイ	大連理工大学	日本語言語文学：外国語学院
カンブアン・ナッタゴン	チェンマイ大学	日本研究：人文学部
チャン・アンソニー	ヴァッサー大学	認知科学
チン・ニン	ヴァッサー大学	歴史学部
メトリチコヴァー・クリステ ィーナ	カレル大学	哲学部 東アジア研究所日本研究学科
キム・ファジン	釜山外国語大学	日本語：コミュニケーション日本語 学部
ユン・ジソン	釜山外国語大学	日本語：コミュニケーション日本語 学部

【本学学生】

氏名	所属・学年	担当
アメル・ナルン	交換留学生	国際学生宿舍入退寮
勝本 葉子	文教育学部人文科学科 2年	キャンパスツアー
喜古 萌	文教育学部人文科学科 2年	空港出迎え 国際学生宿舍入退寮 歓送迎会
坂口 佳帆	文教育学部人文科学科 2年	歓送迎会
小口 藍子	文教育学部人間社会学科 1年	学外イベント 東京一日ツアー
佐々木 美理	文教育学部人間社会学科 1年	空港出迎え 歓送迎会 パンフレット作成
高橋 絢美	生活科学部人間生活学科 1年	学外イベント 東京一日ツアー
橋本 里奈	生活科学部人間生活学科 1年	空港出迎え 本学学生代表 学外イベント 東京一日ツアー
久野 美彩都	生活科学部人間生活科学科 1年	パンフレット作成

【教員・スタッフ】

戸谷 陽子	お茶の水女子大学・グローバル教育センター長
細谷 葵	お茶の水女子大学・グローバル人材育成推進センター 特任准教授
酒井 彩	お茶の水女子大学・グローバル人材育成推進センター 特任アソシエイトフェロー
長塚 尚子	お茶の水女子大学・グローバル教育センター アカデミック・アシスタント
有家 佐和子	お茶の水女子大学・グローバル教育センター アカデミック・アシスタント

【授業概要】

授業名	15B2022 地域研究特論
分野名	グローバル文化学環
担当	細谷葵
学位（単位）	後期集中（2単位）